

■ 県文化賞の大和松蒔さん・来月15日、西宮で公演 ■

「女」の真情 大曲3題で



「雪」を舞う
大和松蒔さん

地唄舞の大和松蒔さんが、兵庫県文化賞の受賞記念公演「第51回舞の会」を10月15日午後6時、西宮市高松町の県立芸術文化センターで開く。

「雪」「十三鐘」「信田妻」という大曲3題をすべて単独で務める渾身の舞台。古来変わらぬ「女」の真情をそれぞれの姿に託して描き出す。

「雪」は「生涯かけて追いたい」と自ら語るこだわりの一作。尼となった女が芸妓時代の恋を回想する内容だ。

「十三鐘」で演じるのは、神鹿をあやめて処刑された少年の母が、愛息の幻影を追いつつ鎮魂を祈る姿。「信田妻」も母の情愛の物語で、幼子を残して去る母狐の哀切極まる道行きとなっている。

今回の演目について大和さんは「いずれも神と人のかかわりの中で成立する舞。超越した存在を畏敬し、自然を慈しむ中で、親子や男女の愛も深まる。現代では薄れてしまった感覚でしょうが、だから

こそ大切にしたいとの思いを込めて選びました」と話す。

昨秋は地唄舞大和流の創流20周年、今夏は理事長を務める明石伝統芸能文化協会の創立30周年と、大きな記念公演が続く。また昨春には初めての舞台写真集も制作するなど、舞踊家として豊かな実りの時期を迎えているようだ。

「舞台に立てることが何よりの幸せ。ひと振り舞うごとに『舞の神様』に感謝し、祈りをささげている。上方の女性文化である地唄舞の傳承に少しでも役立ちたい」と大和さん。

5千円(当日6千円)。古典芸能の会 ☎078・911・9513。

「信田妻」



なお今公演に先立つ10日午後6時、県立明石公園で開かれる市制90周年記念公演「明石日本の美」に出演。「鉄輪」を舞う。無料。明石市文化振興課 ☎078・918・5607

(平松正子)